

島嶼の伝統野菜の維持・保存と教育への活用

中野八伯(教育学部実習地技術専門職員)、一谷勝之(農学部農学科教授)

小栗有子(法文学部法経社会学科地域社会コース教授)、山口幸彦(教育学部講師)

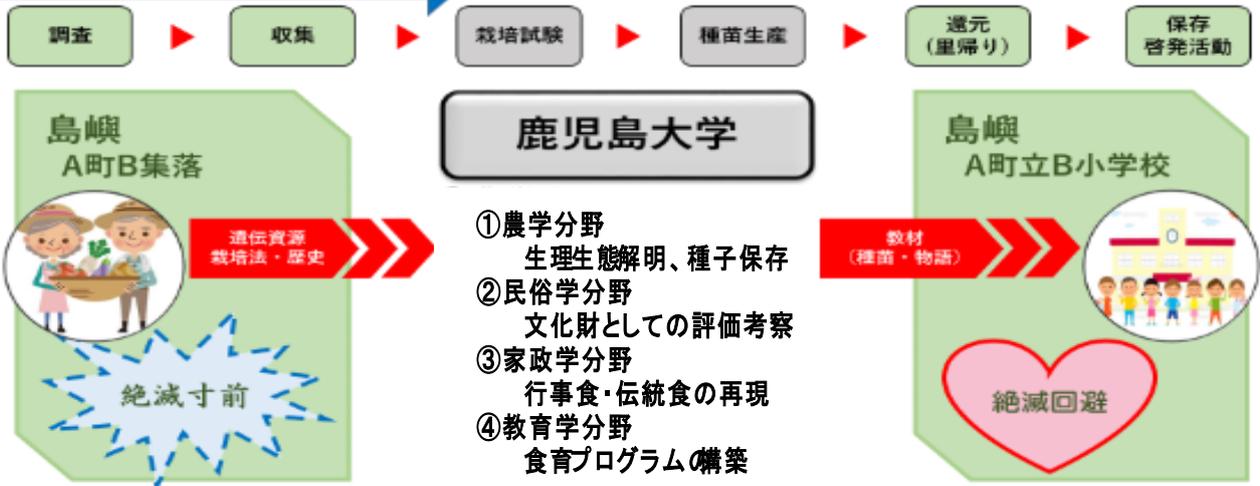
目的

- ▼ 伝統野菜の発掘・採集
- ▼ 伝統野菜の教材化

島嶼地域の伝統野菜の維持・保存と教育への活用

島嶼地域にはそれぞれ固有の伝統野菜が栽培・活用され、地域住民の生活や人づくりを通して地域文化の醸成に大きく貢献してきたが、戦後の経済性重視の商用品種の育成や少子高齢化による生産者の激減および集落の消滅等により、それらの伝統野菜は次々と消失している。本プロジェクトはこれらの遺伝資源を小学校の教育課程に導入(実践的食育プログラム)することによって島嶼地域の伝統的な地域文化や生活文化を消失させることなく未来へと守りつなぐことを目的とするものである。

伝統野菜の学校教材化までの流れ



調査・聞き取り (在来種継承者の写真)



在来ヒョウタン ひしょう (和泊町国頭)



与論在来野菜の種子 (与論町麦屋)



シチトウイの調査 (十島村小宝島)



きいるばんしんの聞き取り (徳之島町母間)



奄美の伝統食 (奄美市名瀬小湊)

食育プログラムの実践 (こどもの活動写真)



宝かぶの原産地の特定実験 (十島村立小宝島学園)



天川料理長による調理実習 (屋久島町立神山小学校)



こきろんぼ創作料理のお披露目 (屋久島町立栗生小学校)



ラジオでの活動報告 (鹿児島県立大島北高等学校)